

中央植物園だより

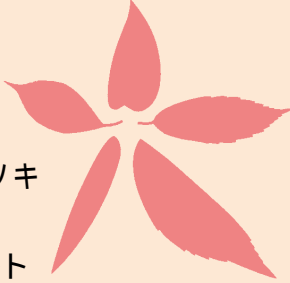


ボタン *Paeonia suffruticosa* の園芸品種
中国原産のボタン科の落葉低木。中国では古くから珍重され、唐の時代、洛陽では「花王」と称され広く親しまれた。日本には平安時代に導入されたといわれ、日本独自の園芸品種が作り出されている。観賞用のほか、根皮を鎮痛、消炎などの薬用に用いる。

撮影：柄戸 清さん（平成15年度私の植物写真展応募作品）

ボタンとシャクヤク

- 活動報告.....登録標本1万点に ほか
- 話題の植物.....エスキナンツス・ラディカンス、ハンカチノキ
- 研究紹介.....チヨウキンレンの構造(1)
- 日本植物研究の歴史...その3 日本の植物を愛した男 シーボルト



ドリ阿斯

ボタンとシャクヤク

ボタン属 (*Paeonia*) には約40種の植物があり、ヨーロッパからアジアと北アメリカ西部の温帯から亜寒帯に分布しています。中国原産のボタンとシャクヤクの豪華な花は、中国では古くから珍重されてきました。室町末期までにはボタンもシャクヤクも日本に導入され、独自の園芸品種が作り出されています。

中央植物園の「ボタン・シャクヤク園」には、日本や西洋の園芸品種のほか、中国雲南省昆明植物研究所の好意によって当植物園へ届けられた中国古来の園芸品種と野生種が植栽されています。



華麗なシャクヤク (*Paeonia lactiflora*) の園芸品種。園内の「ボタン・シャクヤク園」で



中国産の野生種 セイナンボタン (*P. delavayi*)。雲南から四川、チベット東南部にかけての標高2300～3700mの山地に自生。中国名は「紫牡丹」



日本の野生種 ヤマシャクヤク (*P. japonica*)。本州の中部以西から九州のほか、朝鮮半島にも分布。山の木陰に生え、清楚な白い花をつける



セイナンボタンの変種で、「黄牡丹」の中国名をもつキバナセイナンボタン (*P. delavayi* var. *lutea*)



キバナセイナンボタンを交配の片親とした黄花の園芸品種の一つ「金晃」('Alice Harding')

ボタン (*Paeonia suffruticosa*) の園芸品種

見ごろ：4月中旬～下旬



‘神楽獅子’



‘黒光司’



‘初鳥’



‘大棕紫’(中国の園芸品種)



‘瓔珞宝珠’(中国の園芸品種)



‘葛巾紫’(中国の園芸品種)

シャクヤク (*P. lactiflora*) の園芸品種

見ごろ：5月上旬～下旬



‘潮騒’



‘エドゥリス・スペルバ’



‘カルル・ローゼンフェルト’



‘紫単元’(中国の園芸品種)



‘美菊’(中国の園芸品種)



‘烏龍鬧海’(中国の園芸品種)

中央植物園の登録標本が1万点に！

中央植物園が収集し、データを登録した植物のおしぼ標本が1月22日に1万点に達しました。記念すべき1万点目となったのは、タデ科のアキノミチヤナギの標本。友の会植物誌部会の下野末佐美さんが昨年11月に魚津市で採集したもので、県内では初めての記録となります。



1万点目の登録番号を押す内村悦三園長（左）と、1万点目の登録標本となったアキノミチヤナギ（右）

第14回花と緑の冬のフェスティバル サテライト会場 ラン展

「花と緑の冬のフェスティバル」のサテライト会場として、平成16年2月6日～8日にサンライトホールでラン展が開催されました。富山県蘭協会の会員が丹精こめて育てた洋ランや東洋ラン約280鉢が展示され、来場者は華麗なランの世界を堪能していました。植物園が所蔵する蘭の図譜や自生地写真の展示、成長点培養（メリクロン）によるランの大量増殖について紹介したコーナーなども設けられました。期間中は無料開園となり、3日間でのべ1680人の入園者がありました。



会場はランのさわやかな香りに包まれた

企画展示 植物園を支える研究活動(8)

職員の研究成果を発表する展示が、平成16年2月13日～25日にサンライトホールで開催されました。県内で新たにセトヤナギスプタやスジヌマハリイなど12種の植物が確認されたという報告をはじめ、植生や外来植物に関する研究など9件がパネルで紹介されました。また、中国雲南省の昆明植物研究所との共同研究の成果も紹介されました。

発表テーマ：富山県で新たに生育が確認された植物(7)大原隆明 / 富山県で記録されたきのこ(8)橋屋 誠 / ライチョウの生息環境としての立山室堂平「双子山」の植生 吉田めぐみ / 氷見市朝日社叢における主要樹種個体群の構造 山下寿之 / コシキギクの実体とは？ 志内利明 / ササ類の葉の表皮構造 - 気孔周囲の突起の比較 高橋一臣 / ノリ面緑化による外来キク属の侵入とその

影響 中田政司 / 沖縄島に導入されたハンノキの現状 兼本 正 / 重イオンビーム照射によるセンノウの突然変異体の作出 神戸敏成
平成15年度日中共同研究報告：中国雲南省のママ科ナツフジ属植物 大宮 徹



平成15年度の研究成果を紹介

エスキナンツス・ラディカンス *Aeschynanthus radicans* Jack

エスキナンツス属はイワタバコ科に属し、熱帯アジアを中心に約140種ほどが知られています。観賞価値が高い種が多く、園芸植物として多くの種が栽培されています。本種はマレー半島、ジャワ島原産で、「リップスティック・プラント(口紅植物)」の英名があります。中央植物園では冬の間、エスキナンツスやコルムネアなどのイワタバコ科植物をラン温室に展示しました。

(主任研究員 神戸敏成)



「リップスティック・プラント」の英名をもつエスキナンツス・ラディカンス

ハンカチノキ *Davidia involucrata* Baillon

毎年5月の連休の頃には樹冠いっぱいに白いハンカチがぶら下がっているような木を見つけることができます。中国原産のハンカチノキです。中国では雲南省をはじめ、四川省から湖北省の山地斜面に分布しており、19世紀にフランス人神父アルマン・ダビッドによってヨーロッパに紹介されました。このダビッド神父はパンダを紹介した人として知られていて、ハンカチノキの学名(属名*Davidia*)にも氏の名前がつけられています。日本には第2次大戦後東京大学附属小石川植物園に導入され、近年では普通に苗が入手できるようです。ハンカチノキの花のように見えている部分は総苞片とよばれるもので、ヤマボウシやハナミズキの花弁のように見

えている部分と同じものです。

富山県中央植物園では雲南の植物コーナーでハンカチノキを見ることができます。

(主任研究員 山下寿之)



白い苞(ほう)がハンカチをぶら下げたように見えるハンカチノキ

チヨウキンレンの構造(1)

主任研究員 大宮 徹

富山県中央植物園では、中国雲南省にある昆明植物研究所を通じて1997年に導入されたバショウ科の草本・チヨウキンレン *Musella lasiocarpa* (Franchet) C. Y. Wu ex H. W. Li. (中国名：地涌金蓮) を屋外に地植えで展示しています。バナナと同じ科の植物で、葉の付け根が重なり合って茎のようになる偽茎は60cm前後と低いとはいえ、大きな葉を広げると直径は約2メートルあり、ボリュームはたいしたものです。今でこそ通販などで安く入手できる植物となりましたが、導入当時は非常に高価なもので、温室植物という取り扱いが常識であった当時、雪国富山の冬を屋外で越させるという決断には並々ならぬ度胸を要しました。ただ、雲南の植物を熟知した昆明植物研究所の武全安先生からにこやかに勧められては逡巡するわけにもいきません。意を決して「雲南植物のエリア」にフレームを組みビニールをかけて雪がかからないようにだけして2株を植栽、武先生も帰国してのち翌年の初夏、はたしてチヨウキンレンはまさに地から湧き出したように金色に輝く花序を開かせました。

花を咲かせた偽茎はバナナと同様、枯れてしまいますが、その頃までには周囲にいくつも子株が出てきてバトンタッチとなります。そうとなれば調子のいいもので、残りの3株もさっさと植栽してしまい、秋には次々と子株がついて現在は50株を越え、もともとの5株のいずれから分かれた株なのか混乱しないように記録することに苦労しているほどです。雪を避け、たっぷり肥料をやっていれば見事な花が約束されるだろう。チヨウキンレンの栽培はとても楽なものだと高をくくっていたというのが正

直なところでは。

ところが、株が元気に育つにつけ、悩み事が出てきました。あまりに元気な株は花を咲かせる前に子株をたくさんつけてしまい、肝心の親株の花に回る栄養が少なくなって、花が貧弱になる株が目立つようになりました。春先に子株を取り去っても、またあとからあとから子株が出てきて、放置すれば主客が逆転してしまうし、まめに取りつづけければ親株もろとも貧弱になってしまいます。どのようにしたら子株の増殖を押さえることができるのか、その方法を探るにも、まず、どのように子株ができるのかを知る必要があります。(次号に続く)



金色のハスの花を思わせるチヨウキンレンの花序。ハスの花びらのような苞(ほう)が、花を数個ずつ包む

その3 日本の植物を愛した男 シーボルト

技師 大原隆明

「シーボルト」の名前を聞いたことがある人は多いと思いますが、何をした人でしょうか、と問われると答えは十人十色でしょう。歴史好きなら「シーボルト事件」(御禁制の日本地図を国外に持ち出そうとした事件)を思い出すでしょうし、医学関係者には日本に種痘を伝えた医学者としての印象が強いでしょう。植物好きなら、アジサイに愛妾お滝さんに因む学名をつけて発表した逸話が思い出されるかも知れません。

シーボルト(Philipp Franz von Siebold 1796~1866)は1823年にオランダ東インド会社の医務官の名目で来日したドイツ人で、オランダ政府から日本に関する情報を収集するという特命を帯びていました。このため、彼は長崎の鳴滝に私塾を開設し、日本各地から集まってくる医学を志す人々に西洋医学を伝授する一方、彼らから日本各地の文物や情報を収集しました。彼が最も力を入れて収集していたのは植物標本や情報であり、帰国後、この資料をもとに当時の先端の植物学者ツッカーニ(Joseph Gerhard Zuccarini)と共同で「日本植物誌(Flora Japonica)」などを著し、アカマツやクリをはじめ日本産の新種を多数発表しました。

彼以前にも、やはりオランダの医務官の名目でケンペルやツェンベリールらが来日し植物を調査していましたが、シーボルトは前号で紹介したリンネの分類学を日本人の弟子に教授し広めた最初の人であったといえます。シーボルトに植物学の教えを受けた人物の一人に尾張の本草学者であった伊藤圭介(1803~1901)がいますが、彼はその後、日本の植物分類学の礎を築いた一人でした。

シーボルトがヨーロッパへ持ち帰った標本の大半はオランダのライデン大学付属国立植物学博物館に保管されていますが、一部が東京大学総合研究博物館や東京都立大学牧野標本館に「里帰り」しています。この中には野生種ばかりでなく当時の園芸植物も多数含まれています。例えば、サトザクラ‘ギョイコウ’は「緑色の桜」として有名な園芸植物ですが、牧野標本館にはこのサクラと明確に同定できるシーボルトが持ち帰った標本が収蔵されています。これはこの品種が約200年前に確実に存在したという動かぬ証拠です。このように、シーボルトが収集した標本は江戸時代末期の日本の植物の姿をリアルに伝えるタイムマシンの役割も担っています。



富山県中央植物園で現在栽培されているサトザクラ‘ギョイコウ’の花。本品種はクローンであると考えられるため、現在私たちはシーボルトが収集した標本と「同じ個体」を見ていると思われる



シーボルトが持ち帰り、日本に里帰りしたサトザクラ‘ギョイコウ’の標本。花弁に緑色の筋が入るなどの特徴が残っている。東京都立大学牧野標本館収蔵

これからが見ごろの植物



ヨウシュオキナグサ
4～5月 高山植物室



チューリップの野生種
4月 球根植物



クレマチス
5～6月 クレマチス園

お知らせ

イベント案内

夜間開園

夜桜観賞

日 時：ソメイヨシノの満開日2日間 9:00～21:00
(入園は20:30まで、ライトアップは18:00～21:00)

場 所：屋外展示園

入園料：終日無料にて入園できます

ゲッカビジン観賞

日 時：6月～7月の開花日2日間 19:00～21:30
(入園は21:00まで)

場 所：サンライトホール

入園料：大人300円 小・中学生150円

20名以上の団体は2割引

サンライトホール展示 入園料が必要

企画展「ポスターで巡る日本の桜」

4月2日(金)～4月30日(金)

特別展「野生ラン展」

5月3日(月・祝)～5月5日(水・祝)

地元愛好会「さつき展」

6月4日(金)～6月6日(日)

私の植物写真展

6月25日(金)～7月21日(水)

観察会、講座・講習会

野外観察会「春咲く花」

日 時：4月11日(日) 10:00～15:00

場 所：氷見市(現地集合)

講 師：中川定一(植物研究家)

参加費：無料

定 員：20名 要申込

観察会「ランの花のつくり」

日 時：5月3日(月・祝) 13:00～14:00

場 所：実習室、園内

参加費：無料

定 員：24名 要申込

ドリアスコンサート

日 時：5月9日(日) 午前・午後

場 所：花のプロムナード

出 演：The Nature Voices(木管・シンセサイザー

・パーカッション構成の4人グループ)

参加費：大人(高校生を除く)の方は入園料が必要

共 催：富山県中央植物園友の会

県民カレッジ連携講座「第22回植物画講習会」

日 時：5月15日(土)～16日(日) 10:00～16:00

場 所：研修室

講 師：豊田路子・岡田宗男(フェアリーリング会会員)

参加費：500円(画材料)

定 員：50名 要申込

植物写真教室「やさしい花の撮り方」

日 時：5月30日(日) 13:00～16:00

場 所：研修室・園内
講 師：富山県写真家協会

参加費：無料

定 員：50名 要申込

植物学講座「ツツジとシャクナゲ」

日 時：6月6日(日) 10:00～16:00

場 所：研修室

講 師：倉重祐二(新潟県立植物園)

参加費：無料

定 員：70名 要申込

月例行事

日曜植物案内

開催日：4月4日(日) 5月2日(日) 6月6日(日)

時 間：11:00～12:00

参加費：大人(高校生を除く)の方は入園料が必要

植物園オリエンテーリング

開催日：4月18日(日) 5月16日(日) 6月20日(日)

時 間：10:30～12:30

参加費：大人(高校生を除く)の方は入園料が必要

要申込 このマークの講座・講習会は事前の申込が必要です。申込は開催の1ヶ月前から「往復はがき」で受け付けています。

友の会会員募集中!

富山県中央植物園友の会は、中央植物園を中心に植物の観察・学習などを行い、植物についての知識を深めるとともに、植物園の諸活動に協力することを目的とした会です。

特典 会員証を示しサインするだけで入園できます。/ 会報や植物園だよりが送られてきます。/ 多彩な友の会の行事に参加できます。/ 印刷物を割引で購入できます。

会費 年額3,000円(新規の方は、加入月により割引が受けられます。5月：2,750円、6月：2,500円)

入会方法 植物園の入園窓口で随時入会を受け付けています。/ 郵便振替を利用する場合は次の口座あてに会費を払い込みください。口座番号：00790-2-11221

加入者名：富山県中央植物園友の会

有効期限 ご入会の日から翌年の3月31日まで。

問合せ先 富山県中央植物園友の会事務局

担当) 高橋 TEL. 076-466-4187

富山県中央植物園 入園案内

開園時間 9:00～17:00(入園は16:30まで)

11月～1月は9:00～16:30(入園は16:00まで)

休園日 毎週木曜日、年末年始(12月28日～1月4日)

入園料 団体料金(20名以上)

大人(高校生以上) 600円 480円

小人(小・中学生) 300円 240円

土・日・祝日は児童・生徒無料

富山県中央植物園だより 2004.4・5・6月号 平成16年4月1日発行(年4回発行)

編集・発行 富山県中央植物園 〒939-2713 富山県婦負郡婦中町上轡田42 Tel. 076-466-4187

印刷 富山スガキ株式会社